

アフラシア第3回国際シンポジウム

悲鳴をあげる資源 アジア・アフリカにおける地域共同体の持続可能性

主催：龍谷大学アフラシア平和開発研究センター

後援：京都大学G-COEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」(東南アジア研究所)

会場：龍谷大学大宮学舎清和館3階

2008年2月23日(土)

開会の挨拶 / 長崎 暢子(龍谷大学アフラシア平和開発研究センター長)

歓迎の挨拶 / 若原 道昭(龍谷大学長)

主催責任者の挨拶 / 河村 能夫(龍谷大学)

「グローバル化する世界における豊かな農村の未来について」

基調講演 / ノーマン アップホフ(コーネル大学)

「悲鳴をあげる土地・水資源 稲集約栽培法(SRI)が示唆するポストモダン農業の事例と可能性」

セッション1 アジアとアフリカにおける自然資源をめぐる紛争

司会 / 清水 耕介(龍谷大学) 討論 / 平島 成望(日本福祉大学)

N. シャンムガラトナム(ノルウェー生命科学大学)

「南スーダンにおける戦後開発と土地問題」

高橋 和夫(放送大学)

「イラクにとって石油は祝福か呪いか？」

セッション2 比較史的観点からみた資源管理

司会 / 濱下 武志 討論 / テー キアン ウィー(インドネシア科学院)、杉原 薫(京都大学)

藤田 幸一(京都大学)

「小作農の世界・農業労働者の世界 日本とバングラデシュの農業構造の対比」

中林 真幸(大阪大学)

「日本の『転換点』に直面した小作契約下の農民経済」

田中 耕司(京都大学)

「モンスーン・アジアにおける土地・労働集約型農業システム 近代初期における水稻基盤農業の技術的発展の比較」

セッション3 悲鳴をあげる水資源

司会 / N. シャンムガラトナム 討論 / 藤田 幸一

K. パラニサーミ(タミル・ナードゥ農業大学)

「南インドの溜池灌漑 水不足と管理戦略」

中村 尚司(龍谷大学)

「アジア型紛争解決モデルとしての貯水管理」

石坂 晋哉(龍谷大学アフラシア平和開発研究センター)

「『昇華』の政治 現代インドにおけるガンディー主義的環境運動」

2008年2月24日(日)

セッション4 地域(食料)資源に対する新技術・新システムの影響

司会 / 河村 能夫 討論 / 北原 淳(龍谷大学)

ローレンス ブッシュ(ミシガン州立大学)

「新技術、規格、地域食糧資源」

木南 莉莉(新潟大学)

「新技術・地域資源と産業クラスター」

立川 雅司(茨城大学)

「果たされていない約束? 地域食糧資源のための農業バイオテクノロジー」

セッション5 試練の石油経済

司会 / 小瀬一(龍谷大学) 討論 / W. D. ラクシュマン(コロンボ大学)

杉原 薫(京都大学)

「東アジア、中東、世界経済 試練を迎えたオイル・トライアングル」

テー キアン ウィー(インドネシア科学院)

「インドネシア経済に対する1970年代における2つの石油ブームと1980年代初頭のポスト石油ブームの影響」

鈴木 智也(龍谷大学)

「ガソリンから代替燃料への転換の決定 リアル・オプション・モデルの枠組みから」

全体討論

司会 / ポーリンケント(龍谷大学)

中村 尚司、河村 能夫、北原 淳